

言語聴覚ゼミナール

[演習] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 下村敦司 飯田貴俊 太田亨 才川悦子 田村至 中川賀嗣 橋本竜作 黒崎芳子
榊原健一 福田真二 飯泉智子 小林健二 前田秀彦 柳田早織 葛西聡子

【概要】

言語聴覚障害学の各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）のいずれかの領域について、担当教員の指導の下、基礎知識の確認、障害メカニズムの捉え方とともに研究法について学ぶ。

【学修目標】

言語聴覚療法について専門性を深め、さらに科学的に追及するために、各専門領域に関わる障害の成り立ちや捉え方さらに研究法を説明できる。

1. 専門領域に関わる情報を収集できる。
2. 専門領域に関わる情報について議論できる。
3. 科学的なディスカッションができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ） 15		言語聴覚学全般（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）の中で特に関心のある1領域に関して、担当教員の指導の下でゼミナール形式をとり、文献を読解することを通して、基本的研究方法について学ぶ科目である。文献検索から、講読法、問題意識、方法、実験法、結果の解析法、考察など一連の研究の実際を知り、研究的視点を養うことで、より理論的な臨床能力を身に付ける。	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題 50%、その他（受講態度等） 50%

【教科書】

使用しない。

【参考書】

各ゼミ担当教員が、適宜紹介する。

【学修の準備】

それぞれのゼミ担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および言語聴覚療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。